

官報號外 昭和十七年二月六日

○第七十九回 衆議院議事速記録第十號

昭和十七年二月五日(木曜日)

午後一時十三分開議

議事日程 第九號

昭和十七年二月五日

午後一時開議

第一 大東亞戰爭ノ呼稱ヲ定メタルニ

伴フ各法律中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二 日本銀行法案(政府提出)

第三 戰時金融金庫法案(政府提出)

第四 臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)

第一 読會ノ續(委員長報告)

第二 読會ノ續(委員長報告)

第三 戰時金融金庫法案(政府提出)

第四 臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)

提出者

熊谷五右衛門君

提出者

藤生安太郎君

提出者

泉國三郎君

提出者

道家齊一郎君

提出者

三浦虎雄君

提出者

小池四郎君

提出者

助川啓四郎君

提出者

吉植庄亮君

提出者

成島勇君

提出者

石井徳久次君

提出者

杉山元治郎君

提出者

行吉角治君

提出者

小串清一君

提出者

泰幸太郎君

提出者

高橋熊次郎君

提出者

横川重次君

提出者

馬岡次郎君

提出者

野溝勝君

提出者

森田重次郎君

提出者

守屋榮夫君

提出者

猪野毛利榮君

提出者

上田孝吉君

提出者

末松偕一郎君

提出者

守屋榮夫君

提出者

吉植庄亮君

提出者

深澤豊太郎君

提出者

上田孝吉君

提出者

守屋榮夫君

提出者

猪野毛利榮君

提出者

羽田武嗣郎君

提出者

八角三郎君

提出者

簡牛几夫君

提出者

乃木神社ヲ別格官幣社ニ昇格ニ關スル建議案

治療師法制定ニ關スル建議案

提出者

守屋榮夫君

猪野毛利榮君

東郷神社ヲ別格官幣社ニ昇格ニ關スル建議案

提出者

濱野徹太郎君

坂東幸太郎君

一昨四日ニ於ケル特別委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出請願委員

一昨四日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員

一昨四日ニ於ケル特別委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出請願委員

一昨四日ニ於ケル特別委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員

附則

○依光好秋君 本案ハ政府提出恩給法中改
正法律案ノ委員ニ併セ付託セテレンコトヲ

〔政府委員森山銳一君登壇〕

○政府委員(森山銳一君) 只今議題トナリ

マシタ大東亞戰爭ノ呼稱ヲ定メタルニ伴フ

各法律中改正法律案ニ付キマシテ提案ノ理

由ヲ御申上ゲマス、支那事變ハ幾多ノ

段階ヲ經マシテ、遂ニ米英兩國ニ對スル宣

戰ノ大詔済發トナリ、今日ノ事態ニマデ發展

シテ參リマシタ次第アリマスガ、政府ハ

時局ガ新タル段階ニ入りマシタノ機ト

シテ、今次ノ對米英戰爭ハ支那事變ヲモ含

メ大東亞戰爭ト呼稱スル旨ヲ定メ、聖戰ノ

大目的ガ大東亞新秩序ノ建設ニ在ルコトヲ

直截ニ表現スルコト致シタノアリマス、

支那事變勃發以來御制定ヲ仰ギマシタ法

律ノ中ニ、支那事變ナル呼稱ヲ掲ガラレマ

シタモノガ三十有餘ニ上ツテ居ルノアリ

マスガ、大東亞戰爭ナル呼稱ガ定マリマシ

タニ件ヒマシテ、是等現存ノ諸法律ニ用ヒ

ラレテ居リマス「支那事變」ナル字句ヲ「大東

亞戰爭」ト改メマシテ、法文上ノ措辭ヲ名實

一致セシメ、規定ヲ明確ナラシムルヲ適當

ト考ヘ、本法律案ヲ提出致シタ次第アリ

マス、何卒速力ニ御審議ノ上御協賛ヲ與ヘ

ラレシコトヲ切望致シマス(拍手)

○依光好秋君 本案ニ對スル質疑ハ之ヲ省

略セラレシコトヲ望ミマス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異

シマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異

シマス、仍テ動議ノ如ク決シマシテ、遂ニ

查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致

シマス

昭和十七年二月四日

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月四日

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

衆議院議長田子一民殿 告書

委員長 板谷 順助

第一臨時資金調整法中改正法律案(政府提

出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

百万圓ヲ出資致シマシテ、資本金ヲ一億圓
トスル點デアリマス、第三ハ、日本銀行ノ
運營ハ國家目的ノ達成ヲ主眼トシテ行ハル
ベキモノニアリマスカラ、同行役員ハ總テ
政府ニ於テ任免セントスル點デアリマス、
第四ハ、現在日本銀行ハ制度上金融調整ヲ
中心トシタル建前トナツテ居ツタノデアリ
マスルガ、其ノ行商業ヲ擴充致シマシテ、
產業金融、其ノ他我ガ國全般ノ通貨金融ノ
調節ニ當ルト共ニ、更ニ進ンデハ今後廣ク
大東亞共榮圈内ノ金融ノ中心機關タルノ職
責ヲ負ハントスル點デアリマス、第五ハ、
本銀行法案、戰時金融金庫法案、臨時資金調
整法中改正法律案ニ對スル委員會ニ於ケル
審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス
先づ政府案ノ大要ニ付テ證明ヲ致シマス、
今回改正サレントスル日本銀行法案ハ、現
在ノ日本銀行條例ヲ廢シ
マシテ、新タニ日本銀行法ヲ設ケ、同行及
ビ發券制度ニ大改革ヲ行ハントスルモノデ
アリマシテ、其ノ目的トスル所ハ、大東亞
共榮圈ヲ確立スルト共ニ、是ガ維持發展ヲ
期サンガ爲ニハ、先づ以テ中央發券銀行タ
ル日本銀行ガ政府ト一體的關係ニ立チ、國
策ノ嚮所ニ即シテ通貨ノ調節、金融ノ調
整及ビ信用制度ノ保持育成ノ責ニ任ジ、進
ンデハ大東亞共榮圈全體ノ金融ノ中心機關
タルベキ任務ヲ果シ得ルヤウ其ノ體制ヲ整
備セントスルモノデアリマス
其ノ改正ノ主ナル點ヲ申上ゲマスレバ、
第一ハ日本銀行ノ株式組織ヲ根本的ニ改メ
ノ法人組織トスル點デアリマス、第二ハ、
現在日本銀行ノ資本金六千万圓ノ中、拂込
資本額四千五百万圓ニ、更ニ政府ガ五千五
五百圓ヲ出資致シマシテ、資本金ヲ一億圓
トスル點デアリマス、第三ハ、日本銀行ノ
運營ハ國家目的ノ達成ヲ主眼トシテ行ハル
ベキモノニアリマスカラ、同行役員ハ總テ
政府ニ於テ任免セントスル點デアリマス、
第四ハ、現在日本銀行ハ制度上金融調整ヲ
中心トシタル建前トナツテ居ツタノデアリ
マスルガ、其ノ行商業ヲ擴充致シマシテ、
產業金融、其ノ他我ガ國全般ノ通貨金融ノ
調節ニ當ルト共ニ、更ニ進ンデハ今後廣ク
大東亞共榮圈内ノ金融ノ中心機關タルノ職
責ヲ負ハントスル點デアリマス、第五ハ、
日本銀行券發行ニ關シ新制度ヲ採用シテ、
日本銀行券發行ニ關シ新制度ヲ採用シテ、
管埋通貨制度ヲ基礎トスル恆久的ナル新發
券制度ヲ設ケントスル點デアリマス、第六
ハ、日本銀行ハ專ラ國家目的ノ達成ヲ使命
トシテ運營セラルベキモノニアリマスルカ
ラ、同行ニハ出資者總會ヲ置カザルコトト
スルト共ニ、政府以外ノ出資者ニ對シ年四
分ノ配當ヲ保證スルコトトシ、他面剩餘金
ヨリ出資者ニ對スル年五分ヲ超エザル配當
及ビ所定ノ積立金ヲ引去リタル殘餘ハ、之
ヲ學ゲテ國庫ニ納付セシメルコトトシタル
點デアリマス、第七ハ、日本銀行ヲ公的機
關ニ改編スルニ伴ヒマシテ、國家ト同行ト
ノ一體的關係ヲ強化シ、其ノ連繫ヲ緊密ナ
ラシメル爲ニ、同行ニ對スル政府ノ監督制
度ニ付キ所要ノ改正ヲ行ヒ、且ツ日本銀行
制度ノ內容ヲ綜合的明確ニ諸法規ノ統合整
理ヲ行コトヲ致シタ點デアリマス以上ガ
改正ノ主ナル點デアリマシテ、其ノ結果今
後國家ハ日本銀行ニ對シテ無限ノ援助ヲ與
フルコトトナリ、隨テ信用ノ基礎ハ愈々鞏
固トナリ、新事態ニ即應スベキ中央發券銀
行トナルモノト確信スル云フコトガ、大
藏大臣ノ説明セラレタル點デアルノデアリ

次ニ戰時金融金庫法案ニ付テ政府案ノ大要ヲ説明致シマス、此ノ法案ハ戰時經濟確立ノ爲ニ、我ガ國産業ニ要請セラレテ居リマスル金融ハ、一般金融機關等ノ活動竝ニ擴充、產業再編成及び重要物資ノ貯藏等ヲ供給セラレテ參ツタノデアリマスルガ、大東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ生產ノ重點的調達ヲ受クルコトガ困難ナルモノニ供給ノ途ヲ開キ、併セテ有價證券ノ市價安定ヲ遂行致シマスル爲ニハ、從來ノ金融機關ヨリ調達ヲ申上ゲマスルト、而シテ本法案ノ主ナル點ヲ申上ゲマスルト、第一、本金庫ノ資本金ハ三億圓トシ、内政庫ハ二億圓以内ニ於テ出資シ得ルコトトシ、圖ルヲ目的トセントスルモノニアリマス、又本金庫ノ役員ハ總テ政府ガ之ヲ任命シ、評議員ニハ關係官吏及ビ民間關係者ヲ之ニ任命致シマシテ、業務ニ關スル重要ナル事項ニ付テハ總裁ノ諮問ニ應ゼシムルコトト致シ、運營上各方面トノ連絡ヲ十分ニ保持セシメテ受ケテ増資シ得ル點デアリマス、又本金庫ノ必要ニ應ジテ重要物資ヲ貯藏シ、又ハタイト云フ點デアリマス、第二ハ、業務ニ付テハ總裁ノ諮詢ニ應ゼシムルコトト致シ、從來ノ普通ノ金融方法ヲ以テシテハ、其ノ要トスル未動遊休設備ヲ保有スルモノ、國家ノ必要ニ應ジテ重要物資ヲ貯藏シ、又ハ事業ノ整備ヲナスモノ等デゴザイマシテ、モノニ對スル投資、又ハ融資竝ニ市價安定ヲ必要ト致シマスノデ、其ノ調達ハ主トシスル債券ノ發行ニ依ルコトト致シマシテ、拂込必要ナル資金ノ十倍ヲ限り戰時金融債券ヲ發行シテ、遂行致シマスル爲ニハ、相當多額ノ資金シ得ルコトトシ、又政府ハ其ノ債券ノ元本

ノ償還及び利息ノ支拂ヲ保證シ得ルコトト
致シマシタル點デアリマス、第四ニ、本金
庫ハ國家的必要ニ應ジテ、回収ノ確實性必ズ
シモ明確ナラザル投資融資ヲ行フモノニア
リマスカラ、損失ガ生ジタル場合ニモ政府
ハ之ヲ補填シテ、民間ノ出資ニ對シ年五分
ノ配當ヲナシ得ルヤウ必要ナル補給金ヲ交
付セントスル點デアリマス、第五ニ、昨年
設立セラレマシタル日本協同證券株式會社
ノ業務ハ本金庫ニ統合致シマシテ、市價安
定ノ爲ニスル有價證券ノ賣買保有ハ、之ヲ
戰時金融金庫ニ於テ行フコトトスル點デア
リマス

次ニ臨時資金調整法中改正法律案ニ付テ
政府案ノ大要ヲ説明致シマス、改正ノ第一
點ハ、戰時金融金庫ヲ本法第二條ノ金融機
關ノ中ニ加ヘントスル點デアリマス
第二ハ、本法ニ依ル興業債券ノ發行限度ヲ、
二十億圓ヨリ五十億圓ニ擴張スルト共ニ、右
債券ニ對スル政府ノ元利支拂保證ノ限度ヲ
撤廢セントスル點デアリマス、第三ハ、商
工債券ノ發行限度ヲ擴張シ、五千万圓ヲ限
リ商工組合中央金庫法第三十一條ノ制限ヲ
超エテ、之ガ發行ヲナシ得ルコトナサン
トスル點デアリマス、第四ハ、土地其ノ他ノ
モノヲ收用セラレ又賣却シタル者等ガ、其
ノ代償トシテ受ケル金錢ノ處分ニ付テ必要
ナル命令、即チ國債等ノ有價證券ノ購入保有
ヲ命じ得ルノ途ヲ開カントスル點デアリマ
ス、第五ハ、貯蓄債券ノ發行限度ヲ十億圓
ヨリ二十億圓ニ、報國債券ノ發行限度ヲ五
億圓ヨリ十五億圓ニ擴張スルト共ニ、貯蓄
債券ノ商面金額ヲ引上げ、報國債券ノ割増
金ノ附與回數ニ關スル制限ヲ撤廢セントス
ル點デアリマス

以上右三案ハ何レモ戰時金融トシテ重要
案件デゴザイマスノデ、委員會ヲ開クコト

ト致シマシテ、其ノ中主ナル點ヲ御紹介致シマス
先づ第一ハ今議會ニ提出セラレタル法案ハ、總て戰爭遂行上必要ナルモノニ限ラレテ居ルガ、本案ノ如キ最モ慎重ニ研究ヲ要スルモノガ、果シテ今議會ニ提出スル程急速ヲ要スルモノデアルカトノ質問デアリマスガ、之ニ對シマシテ政府ノ答辯ハ、現在ノ日本銀行ハ日本銀行條例、及ビ兌換銀行券條例ヲ基本法トシテ居リマスガ、何レモ其ノ沿革ハ極メテ古ク、例ヘバ其ノ業務ニ關スル制度ハ商業金融ヲ中心トスル建前ヲ執リ、表面上産業金融ニ關興シタリ、外國爲替ノ賣買ヲ行ツタリ、或ハ信用制度ノ保持育成ニ乗出スコトガ出來ズ、發券制度亦現在デハ不合理トナツタ金本位制度ヲ建前トシテ居リマス爲メ、全面的ニ國家的ノ要求ニ副ハヌ點ガ多ク、殊ニ今後同行ガ大東亞共榮圈内金融ノ中心機關トシテ他國ヲ指導シテ行ク上ニ於テ少カラズ障碍トナルノミナラズ、今後我ガ國經濟ヲ愈々綜合的計畫的ニ運營致ス必要ニ迫ラレテ居リマス今日、我ガ國通貨及ビ金融制度ノ中心権タリ日本銀行制度ノ改正ハ、正ニ緊要ノコトデアルト考ヘテ提出スルニ至ツタノデアルト云フ説明ガアリマシタ
次ニ日本銀行ノ組織、業務、發券制度ニ分ツテ主ナル點ヲ御報告申上ゲマス、日本銀行ハ現在ノ組織デ別ニ行詰ツテ居ルトモ考ヘナイガ、之ヲ公的組織トスル理由ハ何處ニアルカ、又本案ノ如ク公的組織トスル位ナラバ、更ニ一步ヲ進メ之ヲ國有組織トスレバ宜イデハナイカ、更ニ又公的組織トスル以上解散ハアリ得ス筈デアルガ、之ヲ豫定シテ居ルカノ如キ規定ヲ設ケタコトハ

タガ、之ニ對シテ政府ハ、日本銀行ハ現在
一種ノ營利法人デアル爲メ金融界全體ノ爲
ニ乗出サネバナラスト云フ時、其ノ出足ガ
ルカラ、自己責任ノ原則ニ立ツ株式組織ハ
適當デハナク、損失アル場合ハ國家方終局
ニ於テ責任ヲ負ヒ、他面同行ノ利益ハ國家
ヨリ興ヘラレタル特權ニ基クモノガ多イカラ
、是ハ原則トシテ國家ニ歸屬セシムベキ
モノデアル等ノ理由カラ、本案ノ如キ組織
トシタノデアル、サレバト言ツテ之ヲ全ク
國有組織トスル必要ハナイノデ、今日最モ
必要ナコトハ、總テノ資本、勞力ガ國家目的
ニ副フヤウニ働クト云フコトデアルカラ、
本案ノ如キ謂ハバ中間的形態フ認メルコト
ハ有意義ノモノト考ヘル、又解散ニ關スル
規定ヲ置イタコトハ、同行ガ國家ヨリ獨立
シタル法人デアルカラ、一應法律上ノ體制
ヲ整ヘル爲デアルト云フ答辯デアツタノデ
アリマス

今日金融竝ニ經濟ハ綜合的且ツ計畫的ニ運營セラレ、政府ノ財政モ當然此ノ綜合的ナ計畫ノ中ニ織込ンデ決定セラルベキモノデアルカラ、日本銀行ガ政府ト一體トナリ運營セラレルコトトナツテモ、決シテ其ノ爲ニ惡性「インフレーション」ヲ惹起スル虞レハナイト云フ答辯デアリマシタ、次ニ、政府ハ過般金融統制團體ヲ設立スルコトニ決定シタ趣キデアルガ、金融統制團體ノ機能ト日本銀行トノ關係、產業統制團體トノ關係竝ニ兩者ノ監督關係等ニ付テ質疑方行ハレタノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、金融統制團體ハ其ノ自律力ヲ基調トシテ、金融事業ニ對シ一定ノ事項ノ行爲、不行爲等ヲ指示スルコトニ依ツテ金融事業ノ指導統制ヲ行フモノデアリ、之ニ對シテ銀行券發行ノ機能ヲ有スル日本銀行ハ貸出、市場操作等ノ所謂金融操作ヲ通ジテ金融統制ニ任ズルモノデアルカラ、兩者ハソレゾレ獨自ノ領域ヲ有スルモノデアルガ、兩者相互ニ相補フコトニ依ツテ、能ク金融統制ノ效果ヲ擧ケ得ルコトトナリ、更ニ金融統制團體ノ事業ノ一トシテ、金融ト產業トノ緊密化ヲ圖リ、互ヒニ其ノ連絡ヲ密ニシテ、是等ヲ監督スル官廳相互間ニ於キマシテモ、一層連絡協調ヲ保ツテ行ク方針デアルト云フコトデアリマシタ

次ニ、日本銀行ガ產業金融ニ積極的ニ關係與スルト云フガ、是ハ如何ナル趣旨デアルカ、又其ノ場合興業銀行、其ノ他ノ銀行トノ關係ハドウナルカトノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテ政府ハ、今日如何ナル金融機關ノ金融モ、總デ產業金融的色彩ヲ帶ビネバナラヌト考ヘルガ、產業資金其ノモノテ賄ハルベキモノデアツテ、日本銀行ガ産業金融ニ關與セントスル趣旨ハ、興業銀行、

其ノ他事業金融ヲ行フ普通銀行ガ、事業資
金ニ一時手詰リヨ來スヤウナ時、親銀行タ
ル立場ニ於テ之ヲ調節スル爲トカ、或ハ資
本市場ヲ緩和スル爲メ債券ノ買入等ノ方法
ニ依ツテ、日本銀行ヨリ一時資金ヲ放出セシ
メントスルノデアツテ、同行ガ直接事業會
社ヲ相手トシテ長期固定ノ事業資金ヲ放出
スルガ如キコトハ、全然ナイト云フ答辯ニア
リマシタ、次ニ、日本銀行ガ本案ニ依リ外國
爲替ノ賣買ヲ行ヒ得ルコトトナリ、更ニ進
シテ東亞共榮團内金融ノ中心機關トシテ、日
國際金融取引ニ乗出スコトトナレバ、正金
銀行等ノ業務トノ關係ハ一體ドウナルカ
トノ質問ニ對シマシテ、政府ノ答辯ハ、日
本銀行ガ外國爲替ノ賣買ヲ行ヒ得ルコトト
ナツテモ、ソレハ決済尻ヲ日本銀行ニ集中
スルコトヲ意味スルモノデアツテ、其ノ取
引ノ相手方ハ正金銀行、臺灣銀行、其ノ他
ノ爲替銀行デアルトノコトデアリマシタ、
更ニ此ノ點ニ關聯シテ南方ノ通貨問題ニ關
シ、多數ノ委員諸君ヨリ質問ガアリマシタ
ガ、演記ヲ中止シテ政府ヨリ詳細ナル所ノ
答辯ガアリマシタ

ト云フヤウナ考ヘノ下ニ、専ラ金ノ量ニ依リ之ヲ調節スルコトハ、今日ノ事態ノ下ニハ到底許サルベキ所デハナイコトデアツテ、通貨ノ量ハ國家ノ經濟秩序ヲ維持安定シ、國家ノ經濟總力ノ嫡切ナ發揮ヲ圖ル爲メ、必要ナ量ハ圓滑ニ供給スルト共ニ、ソレ以上ノ通貨ノ發行ハ嚴ニ之ヲ抑制スルコトヲ目標トシテ調節セラルベキモノニアアルトノ説明ガアツタノデアリマス、然ラバ金ハ對外決済上モ全ク其ノ用途ヲ失フニ至ルト考フベキカトノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテ政府ハ、今後ハ金ノミガ唯一ノ對外決済手段デアルトハ考ヘナイガ、金ハ今後ニ於テモ必要ニ應ジ對外決済上ノ手段タル働くキヲ果スモノト考ヘルカラ、金ハ決シテ之ヲ輕視スベキモノデハナイト云フ説明ガアツタノデアリマス、次ニ銀行券發行高ハ從來ノ如ダ金ニ依ル制限ヲ受ケズ、大藏大臣ガ其ノ發行限度ヲ定メルコトハ、通貨ノ發行ニ政治的色彩ヲ加へ、官僚統制ニ流レ易ク、其ノ信用ヲ害スル虞ガナイカト云フコトヲ中心トシテ、其ノ發行限度ヲ定メル基準、手續等ニ付テ色々質問ガアツタノデアリマスルガ、政府ハ之ニ對シテ通貨ノ調節モ、貯蓄ノ獎勵、國民生活ノ規正等、各般ノ經濟金融政策ヲ綜合的ニ運營シテ初メテ行ハレルモノト考ヘ、政府ハ慎重ニ是等ノ政策ヲ決定シテ行ク積リデアル、大藏大臣トシテ發行限度ヲ定メルノハ、之ニ依リ一應經濟界ノ必要トスル通貨ノ量ヲ示シ、通貨ノ安全感ニ對スル一ツノ指標タラシメントスルノモノニアツテ、此ノ限度ヲ定メルニ、當ツテハ、通貨ノ健全性ヲ保持スルト共ニ、各般ノ經濟政策ト睨合ハセ、配給、物價、財政、一般

經濟取引活動等ノ要素ヲ十分考慮ニ入レ、又事柄ノ重要性ニ鑑ミテ日本銀行ハ勿論、其ノ他ノ經濟界各方面ノ意見ニ徵シ、慎重ニ之ヲ決定スル積リデアルトノ説明デアツタノデアリマス、其ノ他各般ニ瓦リ質疑ガ行ハレマシタガ、詳細ハ速記録ニ依ツテ御諒承ヲ願ヒマス

次ニ戰時金融金庫法案ニ對スル質疑應答ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマス……(簡單)ト呼ブ者アリ)簡單ト云フ譯ニ行キマセヌ、先づ第一ニ戰時金融金庫ト既存ノ金融機關トノ關係ノ質問デアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ大東亞戰爭ノ勃發ニ伴ヒ、我が國產業ニ要請セラレテ居リマスル資金ハ、從來ハ既存ノ金融機關等ノ活動竝ニ融資命令ノ發動ニ依ツテ供給セラレテ參ツタノデアリ、今後モ是等ガ一層供給ニ努力スベキコトハ當然デアリマスルガ、之ニ要スル資金ノ需要ハ今後益々増大スルモノト豫想セラレマスノミデナク、是等ノ資金ノ中ニハ事業ノ政黨性ノ將來ノ見透シガ困難ナル事情ニアル等ノ爲ニ、既存ノ金融機關トシテハ從來ノヤリ方ヨリ、之ニ資金ヲ供給スルコトヲ躊躇セザルヲ得ナイモノガアリマス、而シテ是ハ又反面カラ見レバ預金ヲ保護スルト云フ見地カラ已ムヲ得ネイ所デアリ、斯クノ如キ既存ノ金融機關ヲシテ資金ヲ供給セシムルコトガ無理デアツテ、而モ國家的ニ之ニ資金ヲ供給スル必要ヲ生ズル關係カラ、其ノ調和ノ一策トシテ融資命令ノ制度ガアルノデアリマスルガ、此ノ制度ニ依ツテ個々ノ貸付ニ付テ其ノ元利ヲ補償スルコトニナリマスルト、實際問題トシテ簡單ニ參ラナイ、ソコデ新タニ斯クノ如キ或る程度危險性ノアル資金ノ供給ヲ擔當セシムル爲ニ、國家ノ補償ヲ背景トシテ機關ヲ設立シ、戰時下ニ於テ必要ナル資金ノ圓滑

ル供給ヲスルト共ニ、既存ノ金融機關ガ餘
リニ危険ナル金融ニ乘出シ、不堅實ニナル
ノデハナイカトノ疑ヒヲ避ケテ行クコトガ
必要デアルトノ見地カラ、本金庫ヲ設ケタ
次第デアルトノ説明ガアリマシタ、尙ホ本
金庫設立後モ融資命令制度ヲ廢止スル考ヘ
ハナク、興業銀行ノ資金ノ狀況、其ノ他事
業ノ實際的事情ヲモ考慮シテ、必要ガアレ
バ發スル場合モアルト考ヘテ居ルト云フ說
明ガアツタノデアリマス

次ニ本金庫ノ運營ト產業政策トノ關係ノ
質問デアリマスルガ、政府ハ本金庫ノ運營
ハ國家ノ產業政策ト極メテ緊密ナル關係ガ
アリマスルノデ、產業政策ノ主管廳ノ意見
ヲ十分ニ尊重シテ參リタイ、又本金庫ヨリ
資金ヲ供給スペキ産業ノ選擇、資金ノ供給
ヲ受ケタル者ノ監督等ニ付テハ大藏、商工
兩當局間ノ連絡ヲ緊密ナラシムル爲ニ、遺
憾ナキ措置ヲ講ズル考デアルトノ答辯ガア
ツタノデアリマス、次ニ戰時金融金庫ト產
業設備營團トノ關係ノ質問デアリマスガ、
政府ハ戰時金融金庫ノ業務ト產業設備營團
ノ業務トノ關係ニ付キマシテハ、本金庫ハ
產業設備營團ノ業務ト關係ノナイ業務ヲモ
營ムノデアルガ、其ノ一例トンテ關聯アリ
ト考ヘラルル業務即チ國家緊要產業ヲ營
ムモノノ資金ノ供給者ニ關シテ言へバ、先
づ國家緊要產業ニ付テハ、產業設備營團ハ
國家的ニ急遽建設ノ要アルモ、危險ノ度ガ
極メテ高ク、事業者ニ於テ建設スルコト著
シク困難ナル設備ヲ、所謂國有民營的措置
トシテ自ラ建設スルモノデアリ、戰時金融
金庫ハ危險ノ度ガソレ程高クナク、隨テ事
業者ガ其ノ建設ヲ行フ場合ニ必要ナル特別
ノ金融的助成ヲ與ヘルモノデアリ、而シテ
兩者何レモ國家ノ決定セル產業政策ニ從ツ
テ是ガ實行ニ當ル機關デアリマシテ、眞營

上連絡ヲ保持セシムル爲ニハ、兩者ノ役員ノ一部ヲ兼務セシムルトカ、兩機關ノ連絡委員會ヲ置キ、始終協議セシメルト云フヤウナ措置ヲ講ズル考へデアルト云フ答辯ガアツタノデアリマス

次ニ日本協同證券會社ノ如キ、戰時金融ノ他ノ業務ト全然異ナルモノヲ本金庫ニ統合スルハ如何ナル理由デアルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ戰時ニ於テ有價證券ノ市價安定ヲ圖ルコトハ、國家的ニ緊要ナルコトデアリ、現在ノ日本協同證券會社ハ謂ハバ臨時ノ形態デアツテ、何レハ之ヲ政府補償ヲ背景トスル公的機關ニ改メル必要ガアルト考ヘテ居ルノデアリマシテ、此ノ際國家緊要產業ヲ營ム者等ニ對スル資金ヲ供給スル機關ヲ設立致シマスル以上ハ、其ノ業務モ互ヒニ關聯ガアルノミデナク、何レノ業務モ政府ノ補償援助ヲ背景トシテ行ハレルモノデアルト云フ點ニ於テ共通デアリマスルカラ、之ニ統合スルコトヲ適當ト考ヘタ次第デアルトノ説明ガアツタノデアリマス、其ノ他詳細ハ速記錄ヲ御覽ラ願ヒマス

次ニ臨時資金調整法中改正法律案ニ關シテ、報國債券ノ抽籤ニ付キ、毎年一回以上トアルノヲ削除シタル理由ハ如何トノ質問ニ對シ、政府ハ是ハ割増金ヲ附スルコトヲ廢止スルト云フ意味デハナク、之ニ依ツテ將來其ノ時ノ情勢ニ應ジテ最モ大衆ニ歡迎セラレルヤウナ條件ノ債券ヲ發行シテ、購買力ノ吸収ニ大イニカ力ア盡ス方針デアルトノ答辯ガアツタノデアリマス

大體以上ノ如ク質疑ヲ終リマシテ、昨日午後一時討論ニ入りマシテ、田村秀吉君、世耕弘一君、鶴井貢一郎君、本田英作君ノ諸君が各、其ノ會派ヲ代表シテ意見ヲ述べラレタノデアリマス、此ノ討論ニ現ハレマシタル各

委員ノ綜合的意見見竚ニ希望ヲ御参考マデニ
委員長トシテ申述ベタイト存ジマス
今ヤ我ガ國ハ大東亞戰爭下未會有ノ國運
興隆ノ機運ニ際會シテ、大東亞共榮圈ノ確
立ニ邁進セントスルニ當ツテハ政治、經濟、
文化ノ各方面ニ亘ツテ、一大飛躍シタ續々的
構想ト書策トヲ必要トスルコトハ勿論デア
リマス、隨テ又建設其ノ他凡ユル方面ニ多
大ノ資金ヲ要スルコトモ覺悟セネバナラヌ
ノテアリマス、恐らくハ是等ノ見地カラ今回
日本銀行制度ガ劃期的改革ヲ企圖セラレ、
進シニ度大東亞共榮圈内ノ中央發券銀行トナ
リ、産業金融機能ヲ發揮スルコトトナツタ
ノデアリマスルガ、更ニ又一面重要產業ニ
對スル積極的意圖ヨリ、戰時金融金庫ヲ設
ケラレタモノト信ズルモノデアリマス、此
ノ意味ニ於テ洵ニ其ノ使命ノ重大ナルモノ
ガアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス、
要スルニ問題ハ制度ト云フヨリハ、其ノ衝
ニ當ル人物ト、其ノ運用ノ如何ニアルト云
フコトハ言フマデモナイコトデアリマス、
所ガ顧ミマスレバ、從來政府が國策遂行ノ
目的ノ爲ニ多數ノ國策會社ヲ作ラレ、或ハ
株ヲ持チ、或ハ補給金ヲ出シテ居ラレル、
現在國策會社ノ資本金ハ八十六億三千餘
万圓、債券ノ發行高ハ四十三億九百餘万圓
ノ多額ニ達シテ居ルノデアリマスルガ、果
シテ其ノ成績ハウドナツテ居ルカ、恐ラク
諸君ハ御分リニナツテ居ルデアリマセウ、
若シ此ノ國策會社ノ中ニ成績不良ノ會社ガ
アルト致シマシタラバ、洵ニ斯クノ如キ
手ハ殊ニ戰時金融金庫ノ如キ一朝運用ヲ誤
リマシタラバ、所謂玉石混淆、國家ガ其
ヲ阻碍シ、國家金融ノ根本ヲ破壊スルモノ
ノ尻戻ヒヲセネバナラスト云フ結果ニナル

(拍手)此ノ點ニ付キマシテ、政府ハ深ク思ヒラ致シ、通貨價値ノ安全ヲ確保シテ、所謂惡性「インフレ」ノ防止ニ對シシテハ萬全ヲ期セラレタイ、又生産擴充ノ上ニ苟クモ各省間ニ摩擦競合等ノ弊ニ陥ルコトナク、相互ノ連絡ニ留意シ、其ノ使命ヲ完ウセラレントヲ期セラレタシト云フコトガ、委員會ニ現ハレタ所ノ多數ノ意見デアリマス、此ノ點ハ特ニ御報告ヲ申上ゲマス、斯くて採決ノ結果、全會一致原案ヲ可決致シマシタ、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○讀長(田子一民君) 三案ノ第一讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」と呼ブ者アリ)

○讀長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマンタ

○依光好秋君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○讀長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」と呼ブ者アリ)

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

日本銀行法案 第二讀會(確定議)
戰時金融金庫法案 第二讀會(確定議)
臨時資金調整法中改正法律案 第二讀會(確定議)

其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ防空ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
戰時ニ際シ氣象ノ觀測ノ爲ノ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壊シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ氣象ノ觀測ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第十一條 戰時ニ際シ郵便又ハ電氣通信ノ用ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壊シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ氣象ノ觀測ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス
第十二條 戰時ニ際シ瓦斯又ハ電氣ノ供スル建物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壊シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ通信ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十三條 戰時ニ際シ國防上重要ナル生産事業ノ設備其ノ他當該生産ノ用ニ供スル物ヲ損壊若ハ隱匿シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯又ハ電氣ノ公共ノ利用ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス
第十四條 戰時ニ際シ業務上不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ生活必需品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得
第十五條 戰時ニ際シ刑法第百二十四條ノ規定ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス
第十六條 戰時ニ際シ刑法第百二十四條ノ規定ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
戰時ニ際シ刑法第一百二十五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第十七條 戰時ニ際シ刑法第三百三十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ罰金ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第十八條 戰時ニ際シ刑法第四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ罰金ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第十九條 戰時ニ於ケル刑事手續ニ關スル特例ハ本章ノ定ムル所ニ依ル但シ第二條ノ規定ハ本章ノ適用ス
第二十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚状ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ経過シタルトキハ之ヲ以テスコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ズ
第二十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ陪審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十二條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ機密ノ保持其他ノ公益上ノ理由ニ依リ裁判所ニ於テ之ヲ被告人其ノ他訴訟關係人ニ交付スルコトヲ相當ナラズト認ムルトキハ之ヲ交付セザルコトヲ得
第二十三條 裁判所ハ公判期日前前項ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
第二十四條 刑事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ集取シタルモノニ付之ヲ准用ス
第二十五條 刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ第五條第一項並ニ昭和五年法律第九號第二條及第三條ノ竊盜ノ罪ニ關スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ
第二十六條 有罪ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ノ標目及法令ヲ掲ゲルヲ以テ足ル
第二十七條 國防保安法第三十四條第二項ノ規定ニ依リ上告裁判所原判決ヲ破

毀スル場合ニ於テ其ノ事件裁判所構成法戰時特例第四條第一項第二號ニ掲グル罪ニ關スルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽取スル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スニハ之ヲ陪審ノ評議ニ付セズ
第二十八條 上告裁判所訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ上告申立人及對手人ニ通知スベシ
第二十九條 上告裁判所上告意書ヲ上告裁判所ニ差出スベシ
第三十條 裁判所ニ於テ上告ヲ爲スル日ヨリ三十日以内ニ上告意書ヲ上告裁判所ニ付セズ
第三十一條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定ニ依リ上告裁判所原判決ヲ破

シク制限セラルル懸念モナシトセザル爲ニ、從前ノ制度デハ今次戰爭ニ於ケル領事裁判ノ圓滑ナル運營ハ頗ル困難トナルベキ情勢ニ立到ツテ參リマシタ、以上ノ如キ特例ヲ設ケンガ爲、本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)○議長(田子一民君)岩村司法大臣
○國務大臣(岩村通世君)先づ最初ニ只今議題ニナリマシタ戰時民軍特別法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御令明申上ダマス、戰時ニ際シマシテハ、國ヲ擧ゲテ外敵ニ當ラナケレバナラナイコトハ申上ダルマデモナイノデゴザイマス、隨テ私權關係ニ付テ紛争ヲ生ジマシタ場合ハ、常ニモ増シテ敏速且ツ妥當ニ解決ヲ致サナケレバナラナイト存ジマス、其ノ見地カラ考へマスト、戰爭時ニ於キマシテハ平時ト異ナル應急臨時ノ特別規定ヲ設ケルコトヲ必要ト致スノアリマス、仍テ本法案ニ於キマシテハ、戰爭ニ起因スル障碍、其ノ他ノ影響ヲ考慮致シマシテ、訴訟上ノ期間等ニ相當ノ餘裕ヲ設ケ、一定ノ條件ノ下ニ強制執行ノ一時ノ停止、執行處分ノ取消又ハ破産ノ宣告ノ猶豫、和議ノ條件ノ相當ナル緩和等ヲナシ得ルモノトシ、尙ホ訴訟手續ノ圓滑ナル進行ヲ圖ル爲、管轄ノ規定ヲ緩和シ、攻撃防禦ノ方法ヲ提出スペキ期間ヲ定メ得ルモノトシ、證人、鑑定人ノ訊問ニ代ル書面ノ提出、簡易ナル呼出ノ方法ヲ認メマス外ニ、調停制度ヲ擴張シ、且ツ其ノ運用ノ適正ヲ期セントスルモノデゴザイマス、尙ホ之ニ加ヘマシテ防諜、其ノ他公益上ノ必要アル時ハ、訴訟記録ノ謄寫等ヲ制限シ、用紙ノ關係力ヲ裁判所ノナスベキ公告ハ官報ノミニ依ル

モノトシ、裁判所構成法戰時特例ノ制定ニ
件フ手續上ノ規定ヲ設ケントスルモノデゴ
ザイマシテ、以上何レモ現時ノ體制下痛切
ノ必要ヲ感ズル事項ヲ掲ゲタモノデゴザイ
マス

次ニ戰時刑事特別法案ヲ提出スルニ至リ
マシタ理由ヲ御説明申上ゲマス、御承知ノ
通り大東亜戰爭ハ國家總力戰アリマス、
而シテ其ノ目的ノ完遂ヲ期シマスル爲ニ
ハ、國內ノ治安ヲ確保シ、國民ヲシテ安ん
ジテ職域奉公ノ誠ヲ盡サシメマスト共ニ、
國防上有害ナル犯罪ニ付キマシテモ、是ガ
豫防及ビ鎮壓ノ爲メ、有效適切ナル方策ヲ
講ジマスコトガ、此ノ際最モ緊要ナルコト
ト存ズルノデアリマス、然ルニ現行ノ刑法
及ビ刑事訴訟法ハ、專ラ平時ニ於ケル犯罪
ト、刑事手續トヲ規定致シテ居リマス關係
上、戰時犯罪ノ豫防及ビ鎮壓ノ法規トシテ、
其ノ儘運用スルニ適切ナラザルモノガアル
ノデアリマシテ、戰時下特ニ公共ノ安寧等
ヲ甚ダシク阻碍スル犯罪ニ對シマシテハ、
其ノ刑罰ヲ加重整備シテ、一般豫防ノ目的
ヲ達シマスルト共ニ、刑事手續ニ付キマシ
テモ、亦戰時ニ相應シキ特例ヲ設クルノ必
要ヲ痛感致スノデアリマス、仍テ政府ニ於
キマシテハ、是ガ臨時應急ノ措置ト致シマ
シテ本法案ヲ立案致シ、先般ノ臨時議會ニ
於テ御協賛ヲ得マシタ戰時犯罪ノ外放火、
騒擾、住居侵入及ビ往來妨害等ノ犯罪ニ對
スル刑法所定ノ刑罰ヲ加重シ、且ツ新タニ
妨害等ノ犯罪ニ關スル規定ヲモ整備致シマ
シテ、治安ノ確保ニ資シマスルト共ニ、手
續規定ニ於キマシテモ證據ノ取調、判決ノ特
方式及ビ上告審ノ手續等ニ關スル臨時ノ特

リマス
次ニ裁判所構成法戰時特別案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス、今ヤ我が國ハ國家ノ總力ヲ擧ゲテ東亞戰爭ノ目的完遂ヲ期シテ居リマス、此ノ秋ニ當リ國民權義ノ保全ト國內治安ノ維持トヲ、其ノ職責ト致シマス司法ノ部門ニ於キマシテハ、戰時體制下殊ニ第一線竝ニ占領地域ニ、相當多數ノ職員ヲ進發セシメルノ必要ヲモ考慮シ、且ツ現在ノ情勢ニ於キマシテ、豫想スベキ交通上ノ問題ヲモ參酌シツツ本來ノ機能ノ發揚ヲ十分ニシテ、裁判檢察ノ運行ヲの確迅速ニシ、以テ其ノ職司ノ遂行ヲ遺憾ナカラシメンコトヲ期シ、同ジク本議會ニ提案致シマシタ戰時民事特別法案及び戰時刑事特別法案ノ制定ト相俟ツテ、裁判所構成法ニモ、戰時下是非トモ必要ナリト思量致シマス最小限度ノ特別措置ヲ講ジタク、本法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、申スマデモナク總テ大東亜戰爭中ニ限ツテノ特別デゴザイマス

三審制が裁判所構成法ノ原則デアリマスか、
要ル特殊ナル種類ノ事件ヲ限りマシテ、處理ノ敏速ヲ圖ル爲メ、控訴審ヲ省略致シマシテ、二審制ニ改メントスルモノデアリマス、即チ民事ニ付テハ特ニ迅速ナル審判ヲ要スルモノトシテ、現在デモ訴訟物ノ價額ニ拘ラズ、之ヲ區裁判所ノ管轄ニ屬セシメニ居リマス裁判所構成法第十四條ノ第一ノ訴訟及ビ民事訴訟法第六編、強制執行編ニ規定スル所ノ、債權者ガ既ニ強制執行ニ着手シテ後ノ手續上ノ問題ト、假ノ權利保全處分等ニ關スル事項ノ訴訟竝ニ刑事ニ付テハ、戰時下ニ於ケル國內ノ治安ヲ維持シ、國防經濟ノ完遂ニ資シ、併セテ防諜ノ完璧ヲ期スル爲メ、刑法ノ安寧秩序ニ對スル罪、一般ノ竊盜、強盜ノ罪、戰時刑事特別法案第一章各條ニ定ムル罪ノ如キ公共ノ安寧ヲ阻害スルコト甚ダシキモノ、國家總動員法違反ノ罪ノ如キ經濟統制ヲ紊ルモノ、又軍機保護法違反ノ罪ノ如キ機密ノ漏洩ヲ防止セネバナラヌモノ等ニ關スル事件ノ第一審判決ニ對シテハ、控訴ヲ許サズ、直接上告ガ、前述ノ民事刑事ニ付キ控訴審ヲ省略スルコトト致シタ事件ノ中デ、第一審ヲ區裁判所ニ於テ審理シタモノニ付キマシテハ、其ノ上告ヲ控訴院ニ管轄セシメントスルモノデアリマス、而シテ控訴院ガ上告裁判所トナル場合ニ於ケル法律解釋ノ統一ヲ圖ル爲メ、控訴院ヨリ大審院ニ事件ヲ移送スルコトヲ要スル場合ヲ認メテ置イタノデアリマス、第四ハ、民事ニ付キ、訴訟事件ニアラザル決定事件ノミニ付キマシテ抗告裁判所ノ致シマシタ裁判、即チ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲナシ得ザルコトト致サントスルモノ

デアリマス、何卒慎重御審議ノ上速カニ是等三案ニ對シ、御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(田子一氏君) 質疑の通告がありマ
ス——森田重次郎君

〔森田重次郎君登壇〕

案ニ關聯シ、内閣總理大臣、外務、農林、商工、司法等ノ諸大臣ニ若干ノ質疑ヲ試ミタイト思ヒマス

第一點ハ、大東亞共榮圈ノ建設ト司法制度ノ問題ニ付テデアリマス、皇軍ノ赫々タル戦果ニ依リ、今ヤ世界ノ歴史ニ一大變革ガ齎ラサレマシタ、我ガ肇國理想實現ノ現實的段階ハ、言フマデモナク大東亞共榮圈ノ新建設ニ邁進スルコトデアリマス、戦ヒモ一段落トナリマスレバ、勇氣凜々タル斯界ノ勇士ハ、建設ノ先驅者トシテ前進スルデアラウコトハ當然デアリマス、故ニ國家ハ之ニ對應シ、南洋方面ニ對スル司法制度ノ確立ヲ圖リ、國民ヲシテ安シジテ建設ニ勵マシムルヤウ施設スペキデアリマス、更ニ又政治的獨立ヲ認ムル是等諸地方、諸民族、諸國家ニ對シテハ、博大ナル皇道宣布ノ大義ニ立脚スル司法的指導ノ根本原理ヲ確立シテ、最モ適切ナ指導ヲ加フベキハ勿論、且ツ是ト密接不離ノ關係ニアル所謂大東亞國際法ノ制定ヲナシ、以テ雄渾極マリナキ國家要請ニ應ズベキデアルト思フノデアリマス、更ニ南洋ヲ含ム綜合的上級裁判所ノ中心ハ何處ニ置クベキデアルカ、領事裁判ノ運用ハ如何ニアルベキカ、之ニ要スル裁判官ノ養成方針ハ如何、内地法ヲ是等外地ニ適用スベキ限度ノ問題、在野法曹ノ活動領域竝ニ方向等ニ關スル根本方針ナド、前途ニ幾多ノ大問題ガ横タハツテ居ルト思フノデアリマス、是等ニ對シ外務及ビ

司法大臣ノ御所見ヲ御伺ヒ致シタイノデア
リマスルガ、尙ホ將來在朝在野法曹ノ權威者
ヲ網羅セル調査機關ヲ設ケ、之ニ關スル方
針ヲ決定スペキ意思アリヤ否ヤ、之ニ對ス
ル御所見ヲモ併セテ御伺ヒ致シタイノデア
リマス

ノ特ニ不思議ニ感ジテ居リマスルコトハ、憲法ニ依ツテ獨特ノ地位ヲ與ヘラレテ居ル裁判官、而モ其ノ裁判官ノ最高峰ニ立ツ大審院長ノ地位ヲ得タ人々モ、退官後樞密院ニ奉請セラレ、或ハ貴族院議員ニ勅選セラレタ人々が極メテ少イト云フ一事デアリマス、警視總監、警保局長、法制局長官等、内閣更迭毎ニ如何ニ多クノ人々が勅選セラレテ居ルカト對比シ、且ツ世界列強ノ大審院長ニ與ヘテ居ル待遇上ノ實例ニ徵シマシテモ、何トナク疎外セラレテ居ルニアラズヤトノ感ヲ深クセラレルモノガアルノデアリ。マヌ（拍手）是ハ決シテ獨リ一大審院長ノ問題デハナク、司法官ニ對スル日本ノ社會全般ノ風潮ヲ物語ルモノデアツテ、司法ノ權威ノ爲ニ再省スルノ要アル問題デアルト思フノデアリマス（拍手）私ハ政府ハ、過去ノ理由ノ如何ヲ問ハズ、將來斯カル地位ニ在リタル人々ニ、前ニ述ベマシタヤウナ新タナル途ヲ開クコトニ依リ、一面其ノ經驗ヲ國家ニ投ゼラレンコトヲ望ム者デアリマスルガ、之ニ對スル政府ノ御所見ハ如何デアリマスルカ、御伺ヒ致シタインデアリマス

ヲ通覽スルニ、其ノ諸規定中時弊ニ的申シ、
戰時下ノ現状ニ照シ首肯ニ値スルモノ少シ
トシナイノデアリマスガ、遽カニ贊意ヲ表
シ能ハザルモノモ亦多イノデアリマス、其
ノ最モ大キイモノハ、前ニ述ベマシク第一
審ノ判決ニ對シテ控訴ヲナスコトヲ得ズト
ノ規定デアリマス、今之ヲ現下日本ノ實情
ニ照シテ見マスルニ、區裁判所ノ判事必ズ
シモ練達堪能ノ者ヲ配シテ居ルト云フ譯デ
モナク、又實例ニ微シマシテモ、統制經濟
違反ノ如キハ、第一審判決ニ對シテ控訴院
ニ於テ變更セラレタルモノハ約其ノ六割ニ
及ブトノコトデアリマス、一審裁判ニ於ケ
ル事實認定ノ因難デアルコトハ、之ニ依ツ
テモ明カデアルト言ハナケレバナリマセ
ヌ、二審ノ監督的上級審ガ存シテサヘ斯ク
ノ如クデアリマス、若シ夫レ規定ノ如キ控
訴審ヲ廢シマシタナラバ、一審裁判所ニ於
ケル事實審理及ビ其ノ認定ハ輕率疎漏ノ危
險ヲ大ナラシメ、是ヨリ生ズル人心ノ不安
ハ容易ナラザルモノナリト思フノデアリマ
ス、而モ尙ホ強イテ之ヲ實施セント致シマ
スナラバ、寧ロ上告審ヲ廢シ、事實審理ト
シテノ控訴審ハ之ヲ存置スペキデアルト思
フノデアリマスガ、當局ノ御所見果シテ如
何デアリマスカ、更ニ辯護人ノ制限ノ如キ
モ適當ナル規定デアルト言フコトガ出來ル
カドウカ、疑問ガアリマス、元來裁判事件
ハ、其ノ性質及ビ其ノ難易等ニ依ツテ五人、
六人ノ辯護人ヲ以テスルモ尙ホ困難ヲ感ズ
ルモノノ存在スルコトハ顯著ナル事實デア
リマス、故ニ若シ斯ノ如キ制限規定ヲ必要
トスルノデアリマスルナラバ、須ク許可制
ヲ採用シ、事件ノ性質ニ依ツテ裁判所ノ許
可ニ依リ數人ニ増加シ得ル如キ彈力性ヲ持
セシムベキデアルト思フノデアリマス、提
案ノ理由ヲ御伺ヒ致シマスルニ、唯只管事

件ノ迅速ナル處理ヲ期スルニアルカノヤウデアリマスルガ、若シ然リト致シマスナラバ、是ハ慎重ナル態度ヲ必要トスルト思フノデアリマス、何トナレバ司法當局ハ此ノ目的實現ニ關シ、果シテ在野法曹ノ時局認識ヲ深ムルコトニ力ヲ致シ、且ツ之ニ協力ヲ求メ、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアツタデアリマセウカ、又一面民事事件ノ減少ニ依ル判事ノ配置替ヲ考慮シタコトガアルデアリマセウカ、尙ホ所謂裁判所時間ナル定期評ノ存スル時間ノ不定、不經濟ヲ徹底的ニ是正スル爲メ萬全ノ策ヲ講ジタコトガアルデアリマセウカ、更ニ又此ノ目的實現ニ即應スル裁判官ノ鍛成ニ付キ十全ノ途ヲ講ゼラレタコトガアルデアリマセウカ、卒然トシテ時局下ナル名目ノ下、斯カル法ノ實現ヲナシトセナインデアリマス、若シ此ノ用意ト基礎工作ヲ施シタルコトナク、卒然トシテ時局ゲ來リ、舉ゲ去レバ必ズシモ其ノ途ナシト致シマスルナラバ、本案ノ如キ正ニ時局便乗ナリトノ誇リヲ免レ得ナイデアリマセウ、便乗ノ誇リハ之ヲ可トスルモ、之ニ依ヅテ發生ヲ豫期セラルデアラウ司法權ノ結果司法ノ信用失墜、人心ノ萎靡等、凡ハ國家ノ爲メ斷シテ許容スルコトノ出來ナイ所デアラウト思フノデアリマス、而モ其ノ結果司法ノ信用失墜、人心ノ萎靡等、凡ハ國家ノ爲メ断シテ許容スルモノナリマス、裁判ノ權威ハ迅速ノ點ニノミ存スルモノデハナク、民ヲシテ眞ニ懐服セシムルモノデナケレバナリマセヌ、一罰百戒、是コソ洵ニ望マシイ姿ダト思ヒマス、唯數ノ多キヲ誇ルガ如キハ斷ジテ日本司法界ノ名譽トハ言ヒ得ナイノデアリマス、政府ハ果シテ本法提案ニ當リマシテ如上ノ諸點ニ對シ如何ナル考へラ持シ、

又如何ナル用意ヲ御整ヘニナツテオイデニ目的實現ニ關シ、果シテ在野法曹ノ時局認識ヲ深ムルコトニ力ヲ致シ、且ツ之ニ協力ヲ求メ、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアルデアリマスルガ、其ノ概要ヲ御發表アランコトヲ切望スル者デアリマス、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアルデアリマセウカ、又一面民事事件ノ減少ニ依ル判事ノ配置替ヲ考慮シタコトガアルデアリマセウカ、尙ホ所謂裁判所時間ナル定期評ノ存スル時間ノ不定、不經濟ヲ徹底的ニ是正スル爲メ萬全ノ策ヲ講ジタコトガアル限リ、是コソハ斷乎根絶セシメナケレバキ一箇ノ現象デアリマス、併シ低物價政策ノ堅持ガ現下日本國家意思ノ至上命令デアル限リ、是コソハ斷乎根絶セシメナケレバナラナイ根本命題デアリマス、而モ是等違反者ノ中ニハ、時代ヲ躊躇ヘザル惡質ノ者ノ存在スルコトハ否定スルコトノ出來ナイシハアリマセス、一方警察ノ方カラハ、現ニ即應スル裁判官ノ鍛成ニ付キ十全ノ途ヲ講ゼラレタコトガアルデアリマセウカ、是ノ者ニ對シントセナインデアリマス、若シ此ノ用意ト基礎工作ヲ施シタルコトナク、卒然トシテ時局ゲ來リ、舉ゲ去レバ必ズシモ其ノ途ナシト致シマスルナラバ、本案ノ如キ正ニ時局便乗ナリトノ誇リヲ免レ得ナイデアリマセウ、便乗ノ誇リハ之ヲ可トスルモ、之ニ依ヅテ發生ヲ豫期セラルデアラウ司法權ノ結果司法ノ信用失墜、人心ノ萎靡等、凡ハ國家ノ爲メ断シテ許容スルモノナリマス、裁判ノ權威ハ迅速ノ點ニノミ存スルモノデハナク、民ヲシテ眞ニ懐服セシムルモノデナケレバナリマセヌ、一罰百戒、是コソ洵ニ望マシイ姿ダト思ヒマス、唯數ノ多キヲ誇ルガ如キハ斷ジテ日本司法界ノ名譽トハ言ヒ得ナイノデアリマス、政府ハ果シテ本法提案ニ當リマシテ如上ノ諸點ニ對シ如何ナル考へラ持シ、

又如何ナル用意ヲ御整ヘニナツテオイデニ目的實現ニ關シ、果シテ在野法曹ノ時局認識ヲ深ムルコトニ力ヲ致シ、且ツ之ニ協力ヲ求メ、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアルデアリマスルガ、其ノ概要ヲ御發表アランコトヲ切望スル者デアリマス、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアルデアリマセウカ、又一面民事事件ノ減少ニ依ル判事ノ配置替ヲ考慮シタコトガアルデアリマセウカ、尙ホ所謂裁判所時間ナル定期評ノ存スル時間ノ不定、不經濟ヲ徹底的ニ是正スル爲メ萬全ノ策ヲ講ジタコトガアル限リ、是コソハ斷乎根絶セシメナケレバキ一箇ノ現象デアリマス、併シ低物價政策ノ堅持ガ現下日本國家意思ノ至上命令デアル限リ、是コソハ斷乎根絶セシメナケレバナラナイ根本命題デアリマス、而モ是等違反者ノ中ニハ、時代ヲ躊躇ヘザル惡質ノ者ノ存在スルコトハ否定スルコトノ出來ナイシハアリマセス、一方警察ノ方カラハ、現ニ即應スル裁判官ノ鍛成ニ付キ十全ノ途ヲ講ゼラレタコトガアルデアリマセウカ、是ノ者ニ對シントセナインデアリマス、若シ此ノ用意ト基礎工作ヲ施シタルコトナク、卒然トシテ時局ゲ來リ、舉ゲ去レバ必ズシモ其ノ途ナシト致シマスルナラバ、本案ノ如キ正ニ時局便乗ナリトノ誇リヲ免レ得ナイデアリマセウ、便乗ノ誇リハ之ヲ可トスルモ、之ニ依ヅテ發生ヲ豫期セラルデアラウ司法權ノ結果司法ノ信用失墜、人心ノ萎靡等、凡ハ國家ノ爲メ断シテ許容スルモノナリマス、裁判ノ權威ハ迅速ノ點ニノミ存スルモノデハナク、民ヲシテ眞ニ懐服セシムルモノデナケレバナリマセヌ、一罰百戒、是コソ洵ニ望マシイ姿ダト思ヒマス、唯數ノ多キヲ誇ルガ如キハ斷ジテ日本司法界ノ名譽トハ言ヒ得ナイノデアリマス、政府ハ果シテ本法提案ニ當リマシテ如上ノ諸點ニ對シ如何ナル考へラ持シ、

又如何ナル用意ヲ御整ヘニナツテオイデニ目的實現ニ關シ、果シテ在野法曹ノ時局認識ヲ深ムルコトニ力ヲ致シ、且ツ之ニ協力ヲ求メ、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアルデアリマスルガ、其ノ概要ヲ御發表アランコトヲ切望スル者デアリマス、眞劍ニ窮屈ノ途ヲ講ジタコトガアルデアリマセウカ、又一面民事事件ノ減少ニ依ル判事ノ配置替ヲ考慮シタコトガアルデアリマセウカ、尙ホ所謂裁判所時間ナル定期評ノ存スル時間ノ不定、不經濟ヲ徹底的ニ是正スル爲メ萬全ノ策ヲ講ジタコトガアル限リ、是コソハ斷乎根絶セシメナケレバキ一箇ノ現象デアリマス、併シ低物價政策ノ堅持ガ現下日本國家意思ノ至上命令デアル限リ、是コソハ斷乎根絶セシメナケレバナラナイ根本命題デアリマス、而モ是等違反者ノ中ニハ、時代ヲ躊躇ヘザル惡質ノ者ノ存在スルコトハ否定スルコトノ出來ナイシハアリマセス、一方警察ノ方カラハ、現ニ即應スル裁判官ノ鍛成ニ付キ十全ノ途ヲ講ゼラレタコトガアルデアリマセウカ、是ノ者ニ對シントセナインデアリマス、若シ此ノ用意ト基礎工作ヲ施シタルコトナク、卒然トシテ時局ゲ來リ、舉Ge去レバ必ズシモ其ノ途ナシト致シマスルナラバ、本案ノ如キ正ニ時局便乗ナリトノ誇リヲ免レ得ナイデアリマセウ、便乗ノ誇リハ之ヲ可トスルモ、之ニ依ヅテ發生ヲ豫期セラルデアラウ司法權ノ結果司法ノ信用失墜、人心ノ萎靡等、凡ハ國家ノ爲メ断シテ許容スルモノナリマス、裁判ノ權威ハ迅速ノ點ニノミ存スルモノデハナク、民ヲシテ眞ニ懐服セシムルモノデナケレバナリマセヌ、一罰百戒、是コソ洵ニ望マシイ姿ダト思ヒマス、唯數ノ多キヲ誇ルガ如キハ斷ジテ日本司法界ノ名譽トハ言ヒ得ナイノデアリマス、政府ハ果シテ本法提案ニ當リマシテ如上ノ諸點ニ對シ如何ナル考へラ持シ、

アリマス、今ヤ國民ハ如何ニシテ夫會有ノ國運進展ニ協力シ、其ノ生活ヲ意義アラシムベキカニ心ノトキメキヲ感ジツアルモノノヤウデアリマス、然ルニ是等ノ人々ノシテ、一時的現象デアルトハ言ヒナガラ、故郷遠キ海ノ彼方ニ奮戰シツツアル其ノ子ノ姿ヲ悲シムベキ法廷ニ想起セシメ、獻狀流涕セシムルガ如キ事態ヲ生ゼシムルハ、斷シテ八紘一字ヲ念トスル我ガ皇道ニ副フ所以デハアリマセヌ、ドウカ全國民ヲシテ本當ニ歡喜ノ裡ニ協力前進セシメンコトヲ、私ハ政府ニ要望スルモノデアリマス、是コソ現實日本ノ求ムル最大ノ政治デナケレバナリマセヌ、是レ本事犯ノ取扱方法ニ關シ、大刷新ヲ要望スル所以ナノデアリマス、切ニ政府ノ勇斷ヲ冀ウテ已ミマセヌ以上ニ對シ關係諸大臣ノ御答辯ヲ願ハレマスレバ幸ヒニ存ズル次第デアリマス（拍手）

〔國務大臣東郷茂徳君登壇〕

○國務大臣（東郷茂徳君）日本ガ有シテ居リマス領事裁判ハ、御承知ノ通り「タイ」國ニ付キマシテハ先年之ヲ撤廢致シマシタ、只今持ツテ居リマスノハ中華民國ダケデアリマス、尙ホ中華民國ニ於キマシテモ、日本基本條約ニ於キマシテ、日支新關係ノ發展ニ照應シ之ヲ撤廢スルト云フコトモ約束致シタヤウナ次第デアリマスカラ、此ノ點ニ付テハ左様御承知ヲ願ヒタイ譯デアリマスガ、南方地域ニ於キマシテハ、此ノ前一月二十一日ニ申上げマシタ通り、現在占領致シテ居リマス地域ニ付テハ、帝國ニ於テ東亞ノ防衛上絶對ニ必要ナル所ハ之ヲ把握スル、其ノ他ノ地域ニ付テハ、其ノ地域ノ傳統及ビ文化ニ應ジテ適當ニ之ヲ處理スルト云フコトヲ申上ゲマシタ譯デ、簡單ニ申

云フコトニ相成リマスルガ、或ルモノハ我ガ統治地域ニ入ルト云フコトニナル譯デアリマス、サウ云フ狀態ニ相成リマスル譯デアリマスルカラ、將來ノ新軍態ニ應ジマシテ、司法組織モ之ヲ出來ルダケ其ノ軍態ニ應ジテ善處シテ參リタイ、斯様ニ存ジテ居ル次第デアリマス

〔國務大臣岩村通世君登壇〕

○國務大臣（岩村通世君）森田君ノ御質問ニ對シテ御答へ申上ゲマス、第一點ハ、南方ノ諸問題ニ付テ一段落シタナラバ、何方可案等ヲ作ツタラドウカト云フ御尋ネデアツタヤウニ了承致シマス、只今ハ御承知ノ通關シ、大刷新ヲ要望スル所以ナノデアリマス、一切ニ政府ノ勇斷ヲ冀ウテ已ミマセヌ以上ニ對シ關係諸大臣ノ御答辯ヲ願ハレマスレバ幸ヒニ存ズル次第デアリマス（拍手）

〔國務大臣東郷茂徳君登壇〕

○國務大臣（東郷茂徳君）日本ガ有シテ居リマス領事裁判ハ、御承知ノ通り「タイ」國ニ付キマシテハ先年之ヲ撤廢致シマシタ、只今持ツテ居リマスノハ中華民國ダケデアリマス、尙ホ中華民國ニ於キマシテモ、日本基本條約ニ於キマシテ、日支新關係ノ發展ニ照應シ之ヲ撤廢スルト云フコトモ約束致シタヤウナ次第デアリマスカラ、此ノ點ニ付テハ左様御承知ヲ願ヒタイ譯デアリマスガ、南方地域ニ於キマシテハ、此ノ前一月二十一日ニ申上げマシタ通り、現在占領致シテ居リマス地域ニ付テハ、帝國ニ於テ東亞ノ防衛上絶對ニ必要ナル所ハ之ヲ把握スル、其ノ他ノ地域ニ付テハ、其ノ地域ノ傳統及ビ文化ニ應ジテ適當ニ之ヲ處理スルト云フコトヲ申上ゲマシタ譯デ、簡單ニ申

云フコトニ相成リマスルガ、或ルモノハ我ガ統治地域ニ入ルト云フコトニナル譯デアリマス、サウ云フ狀態ニ相成リマスル譯デアリマスルカラ、將來ノ新軍態ニ應ジマシテ、司法組織モ之ヲ出來ルダケ其ノ軍態ニ應ジテ善處シテ參リタイ、斯様ニ存ジテ居ル次第デアリマス

〔國務大臣岩村通世君登壇〕

○國務大臣（岩村通世君）森田君ノ御質問ニ對シテ御答へ申上ゲマス、第一點ハ、南

方ノ諸問題ニ付テ一段落シタナラバ、何方可案等ヲ作ツタラドウカト云フ御尋ネデアツタヤウニ了承致シマス、只今ハ御承知ノ通關シ、大刷新ヲ要望スル所以ナノデアリマス、一切ニ政府ノ勇斷ヲ冀ウテ已ミマセヌ以上ニ對シ關係諸大臣ノ御答辯ヲ願ハレマスレバ幸ヒニ存ズル次第デアリマス（拍手）

云フ上カラ、迅速ニ處理ヲシナケレバナラ
スト云フヤウナ特殊ノ事件ニ付テノミ、戰
時中ニ限ツテ二審制度ヲ採用致シタイ、斯
ニ云フ考ヘデアリマス、三審制度ガ二審ニ
ナルノデアリマスカラ、第一審ニ關興スル
所ノ判事等ニハ、十分配當等モ考ヘマシテ、
注意ヲ致シテ二審制度ノ裁判ニ當ルヤウニ
致シタイト云フコトヲ考ヘテ居リマス
尙ホ辯護人ノ數ヲ制限シタ點デアリマス
ガ、辯護人ノ數ヲ多ケレバ多イダケ、無論
注意ハ行届クノデアリマスケレドモ、今日
マデ辯護人ノ事件ニ對スル數ヲ調ベマス
ト、大概平均ハ二人以下ノヤウデアリマス、
勿論事件ニ依リマシテハ、重大ナ事件デア
レバ、二ツノ事件ニ數十人ノ辯護人ガ使ハ
レルト云フコトモ私共知ツテ居リマスガ、
今回ノ如ク特殊ノ事件ニ付キマシテハ、國
防保安法ニモ先例ガアリマスルノデ、成ベ
ク事件ヲ迅速、適正ニ處理シテ行クニハ、
ヤハリ先例モアリマスルコトデアリマスカ
ラ、二人ニ制限致シタイト云フコトデ、此
ノ案ヲ考ヘマシタ、勿論二人ノ辯護士ノ方
ガ補助ノ辯護士ノ方ヲ得テ、色々調査セ
ラレルト云フコトハ無論アラウト思ヒマ
スガ、公判ニ立會ハレル方トシテハ、二人
ニ御願ヲシタイト云フヤウナ理由デ、立案
ヲ致シマシタ次第デゴザイマス

尙ホ最後ニ相談所ノ問題デアリマスガ、
是ハ商工省等ノ關係デ、私ノ方ノ關係デハ
ナイト思ヒマス、併シ此ノ統制經濟事犯ト
云フモノハ、先程御話ノ通り、我ガ國民ニ
ハ慣レテ居ラナイ新シイ取締規定デアリマ
ス、國民モ隨分迷惑ヲシタコト私ハ思ヒ
マス、併シテガラ先程御話モアリマシタ通り、
低物價政策ヲ執ル上ニ於テ、戰爭目的完遂
ノ爲ニ已ムヲ得ナイツノ法規デアラウト
思ヒマス、ソレデアリマスカラ、此ノ統制
致シタイト云フコトヲ考ヘテ居リマス
○議長(田子一民君) / 三田村武夫君
〔三田村武夫君登壇〕

○三田村武夫君 只今議題トナリマシタ各
案中、戰時刑事特別法案、裁判所構成法戰
時特例案ニ付キマシテ、一二三基本的ナ問
題ヲ御尋ね致シタイト思ヒマス、最初ニ質

經濟事件ノ處理ニ付キマシテハ、先ヅ能ク
ウト思ヒマス、ソレカラ全ク法律ヲ知ラナ
イト云フコトモアル、左様ナ點ハ十分斟酌
ガ、辯護人ノ數ヲ制限シタ點デアリマス
ガ、辯護人ノ數ヲ多ケレバ多イダケ、無論
注意ハ行届クノデアリマスケレドモ、今日
マデ辯護人ノ事件ニ對スル數ヲ調ベマス
ト、大概平均ハ二人以下ノヤウデアリマス、
勿論事件ニ依リマシテハ、重大ナ事件デア
レバ、二ツノ事件ニ數十人ノ辯護人ガ使ハ
レルト云フコトモ私共知ツテ居リマスガ、
今回ノ如ク特殊ノ事件ニ付キマシテハ、國
防保安法ニモ先例ガアリマスルノデ、成ベ
ク事件ヲ迅速、適正ニ處理シテ行クニハ、
ヤハリ先例モアリマスルコトデアリマスカ
ラ、二人ニ制限致シタイト云フコトデ、此
ノ案ヲ考ヘマシタ、勿論二人ノ辯護士ノ方
ガ補助ノ辯護士ノ方ヲ得テ、色々調査セ
ラレルト云フコトハ無論アラウト思ヒマ
スガ、公判ニ立會ハレル方トシテハ、二人
ニ御願ヲシタイト云フヤウナ理由デ、立案
ヲ致シマシタ次第デゴザイマス

○國務大臣岸信介君登壇 ○國務大臣岸信介君登壇 各種ノ經濟統制違
反防止ニ關シマシテ、物價ノ公定等ニ付キ、
其ノ他是等ノ統制ノ運營ニ付テ、政府トシ
テ一段ノ注意ヲ用フベキモノデアルト云フ
御意見ハ、私共モ同感デアリマシテ、物價
統制違反ノ實情等ヲ見マシテモ、隨分此ノ
手續ガ簡便ニ圓滑ニ行ツテ居ナイトカ、或
ハ統制法規ガ十分ニ理解徹底ヲシテ居ラナ
イト云フヤウナ事柄カラ、統制違反ノ問題
ノ生ジテ來ル場合モ少クナイヤウニ思フノ
デアリマス、隨ヒマシテ物價問題ニ付キマ
シテハ、成ベク公定セラルベキ價格ヲ適正
ナラシメ、且ツ其ノ公定ヲ速カニシ、同時
ニ是ガ十分ニ徹底理解サレルヤウナ方法ヲ
講ジツツアリマスケレドモ、一段トサウ云
イト、斯ウ考ヘテ居リマス

○議長(田子一民君) / 三田村武夫君
〔三田村武夫君登壇〕

疑ノ要點ヲ申上ゲマス、第一、戰爭遂行ニ
致シマシテ、輕重ヲ能ク甄別シテ、輕イ者、
知ラザル者、知ラズシテ犯シタト云フ者ニ
對シテハ、十分教ヘル態度ヲ今日マデ執ツ
テ居リマス、併シ不幸ニシテ、二度モ三度
モ同種ノ犯罪ヲ繰返スト云フヤウナ惡質ノ
者ハ、是ハ已ムヲ得ナイト思ヒマス、サウ
願ヒマス(拍手)

○國務大臣岸信介君登壇 ○國務大臣岸信介君登壇 各種ノ經濟統制違
反防止ニ關シマシテ、物價ノ公定等ニ付キ、
其ノ他是等ノ統制ノ運營ニ付テ、政府トシ
テ一段ノ注意ヲ用フベキモノデアルト云フ
御意見ハ、私共モ同感デアリマシテ、物價
統制違反ノ實情等ヲ見マシテモ、隨分此ノ
手續ガ簡便ニ圓滑ニ行ツテ居ナイトカ、或
ハ統制法規ガ十分ニ理解徹底ヲシテ居ラナ
イト云フヤウナ事柄カラ、統制違反ノ問題
ノ生ジテ來ル場合モ少クナイヤウニ思フノ
デアリマス、隨ヒマシテ物價問題ニ付キマ
シテハ、成ベク公定セラルベキ價格ヲ適正
ナラシメ、且ツ其ノ公定ヲ速カニシ、同時
ニ是ガ十分ニ徹底理解サレルヤウナ方法ヲ
講ジツツアリマスケレドモ、一段トサウ云
イト、斯ウ考ヘテ居リマス

○三田村武夫君登壇 ○三田村武夫君登壇 只今議題トナリマシタ各
案中、戰時刑事特別法案、裁判所構成法戰
時特例案ニ付キマシテ、一二三基本的ナ問
題ヲ御尋ね致シタイト思ヒマス、最初ニ質
ト思ヒマス

先づ第一問、大東亜戰爭完遂ノ爲ニハ、
一億鐵丸トナツテ總進軍シナケレバナラヌ
ス、以下時間ノ關係モアリマスノデ、簡單
ニ所見ヲ申述べマシテ、御意見ヲ伺ヒタイ
ト思ヒマス

ノ大目的完遂ノ爲ニ、戰時下ニ好マシカ
ラザル犯罪ヲ防止シ、是等ノ行爲ヲ嚴罰ニ
處スルコト固ヨリ必要デアリマス、併シ今
日更ニ必要ナコトハ、眞ニ一億人心ヲ把握
スルコトデナクテハナラヌ、ソレハ冷イ法
律的監視眼ヲ以テ國民ヲ警戒スルコトニ依
ツテ達成スルノデハアリマセヌ、寧ロ廣ク
ミヲ同ジウセシメ、一人ノ不所存者ヲモナ
カラシムルコトガ、日本政治最高ノ指導理
念デナケレバナラヌ、此ノ積極的國民動員、
即チ戰時下犯罪ノ積極的防止策ニ關シ、如
何ナル用意ト方策アリヤ、第二點、形式的
法治主義ハ、歐米征服國家ノ支配原則デア
ツテ、日本建國ノ大本タル君民一如ノ道義
政治ト根本ノ理念ヲ異ニスル、今ヤ日本ハ
外來的法治主義ノ繁習ヲ脱却シテ、道義的
德治政治ヲ確立スル必要アリト思フガ如何、
第三點、法律偏重ノ思想ハ國民ノ道德的良心
ヲ麻痺セシメ、法律ニ違反シナケレバノ考
へガ、今日如何ニ多クノ社會惡、道德惡ヲ
生ミツツアルカ、又國民思想ニ惡影響ヲ及
ボシツツアルカニ鑑ミ、道德律ヲ重視シ、道
徳ニ對シテ峻厳ナル制裁ヲ加フル要アリ
ト思フガ、政府ニ如何ナル用意アリヤ、第
四點、罪ハ上ニ重ク、賞ハ下ニ厚キヲ治政
ノ要諦トナス、所見如何、第五點、商工大
臣ハ此ノ戰時下ニ恥ヅベキ經濟違反ヲ絶無
ナラシメル良策ノ持合セハナイカ、第六
點、裁判所事務ノ滯滯ハ下級職員ノ待遇低
劣ナルニ基因スル所多シ、政府ハ是等下級
職員待遇改善ノ用意アリヤ、以上デアリマ
ス、以下時間ノ關係モアリマスノデ、簡單
ニ所見ヲ申述べマシテ、御意見ヲ伺ヒタイ
ト思ヒマス

朝政一新ノ時ニ膺リ天下億兆一人モ其處ヲ
得サル時ハ皆朕力罪ナレハ今日ノ事
朕自身骨ヲ勞シ心志ヲ苦メ艱難ノ先ニ立古

列祖ノ靈サセ給ヒシ蹤ヲ履ミト仰セニナ
ツテ居リマス、億兆一人モ處ヲ得ザル時ハ

朕ガ罪デアル、今日ノ事朕自ラ身骨ヲ

勞シ、心志ヲ苦シメ難難ノ先ニ立ツト仰セ

ニナツテ居リマス、又畏多クモ 今上陛下

御卽位ノ御勅語ヲ拜シマスト、「皇祖皇宗國

ヲ建テ民ニ臨ムヤ國ヲ以テ家ト爲シ民ヲ視

ルコト子ノ如シ列聖相承ケテ仁恕ノ化下ニ

沿革兆民相率キテ敬忠ノ俗上ニ奉シ上下感

孚シ君民體ヲニス是レ我カ國體ノ精華ニ

シテ當ニ天地ト竝ヒ存スヘキ所ナリ」ト仰

セニナツテ居ル、民ニ臨ムヤ國ヲ以テ家ト

爲シ、民ヲ視ルコト子ノ如シト仰セニナツ

テ居ル、正ニ是畏多クモ一天萬乘大君ノ

御仁慈デアリマス、又此ノ戰時ニ於テ、

如何ニ 上御一人ガ其ノ深キ御仁慈ヲ廣ク、

溫カク及ボシ賜ハルカラ吾々ハ拜祭シナク

レバナリマセヌ、明治天皇ノ御製ニハ

「子ラハ皆軍ノニハニイデハテ翁ヤヒトリ

山田モルラム」斯ウ云フ御製ガアルノデア

リマス、大御心ハ戰線ニ思ヒヲ致サレ、銃

後ニ思ヒヲ致サレ、賤ガ伏屋ニ山田守ル翁

ノ上ニモ慈シミヲ垂レ給フノデアリマス、

又今上陛下ニ於カセラレテモ、今次ノ大

東亞戰爭勃發以來、全國民ハ赫々タル武勳

ノ前ニ國ヲ擧ゲテ戰勝ニ醉ウテ居ル其ノ眞

最中、歡喜怒濤ノ如ク、戰勝ニ醉ウテ居ル

其ノ眞最中、十二月十五日 畏クモ井野農

林大臣兼拓務大臣ヲ御召シニナリマシテ、

食糧事情ニ付キ御下問アラセラレタコト

ヲ、吾々ハ新聞デ拜承致シテ居リマス、井

野農林大臣ハ御前ヲ退下シテ、食糧事情ニ

付キ有難キ御下問ヲ拜シマシタコトハ恐懼

感激ニ堪ヘナイ次第アリマス、斯ウ語ツ

テ居ル、諸君、皆悉ク 陛下ノ赤子デアリ

マス、御國ノ爲メナラバ死ンデモ悔ヒナイ

日本國民、此ノ國民ノ眞ノ愛國心ヲ國家目

的ニ勤員スルコトガ、今日施政ノ最高理念
デナケレバナラヌト思ヒマス、私ハ其ノ見

地カラ、此ノ戰時下ノ治安問題ニ關シテモ、

全國民ノ實生活ニ觸レテ、法律的冷眼ヲ以

テ臨ムバカリデナク、其ノ本當ノ姿ヲ把握シ

テ、眞ニ理解セシメルコトガ必要ダト思ヒ

マス、東條總理大臣ニ屢々之ヲ言ツテ居ラレマ

ス、御氣持ハ能ク分リマスガ、具體的ナ施策ノ

上ニ、十分之ヲ念願トシテ戴キタイト由上グル

ノデアリマス

第二問、簡單ニ申上ゲマスガ、私ハ今日

日本ハ形式的法治主義ヲ改メテ、道義的政

治ヲ行ハナケレバナラヌト思フ、形式的法

治主義ハ人間ヲ機械化スル、形式化スル、

機械化サレ形式化サレタ其ノ國民ニハ能動

性ナク又躍動性ガアリマセヌ、今日程統制、

命令、規則、法律ノ多イ時代ハ未ダ會テア

リマセヌガ、ソレデモ尙ホ違反ハ出テ來ル、

吾々ガ茲ニ考ヘナケレバナラヌコトハ、法

律ヤ命令ダケデハ出來ナイコトガアル、何

カト言ヘバ、物ヲ使ツテハイカヌ、配ツテ

ハイカヌ、其ノ制限ハ出來マス、出來タ物

ノ配リ方、消費ノ方法ニ關シテハ制限ハ出

來マスガ、作ル行為、即チ積極的、能動的

作爲ニ關シテハ一片ノ法律命令ヲ以テ爲シ

得ルモノデハアリマセヌ、米ヤ、麥ヤ、馬

鈴薯ヲ作ツテ、作ツタ物ヲ配給シ、消費ス

ルコトニ關スル制限統制ハ出來マスガ、作

耕シ、苗ヲ植エ、炎熱百何十度ヲ冒シテ田ノ

臺所ニ食糧ガアルカト云フコトノ御下問ガ

アラセラレタコトヲ拜シタナラバ全國民

ノ感激シナイ者ハアリマセヌ〔質問ヲシロ

ト呼ブ者アリ〕質問デアリマス、マダ時間

八十分經ツテ居リマセヌ、私ハ今日本デ氣

ノ付カナイ所、即チ此ノ形式的法治主義ノ

私ハ固ヨリ日本ハ法律國家デアリマスカラ、

法律ガ要ラヌト云フノデハナイ、法律トカ、

規則トカ、命令トカ、其ノ形式ダケニ四ハ

根本ハドウシテモソコニ思ヒヲ致サナケレ
バイカヌト申上ゲル

第三ニ、私ハモウ少シ道德秩序、道德律

ヲ尊重シナケレバナラヌ、而シテ道德惡ニ對

スル道德的制裁ヲ加ヘナケレバナラヌト思

ヒマス、本年ノ一月十九日デアリマシタ

カ、衣類點數制ノ實施ガ發表ニナリマシタ

此ノ記事ハ一月二十五日ノ朝日新聞ノ記事

デアリマスガ、實ニ驚クベキ事實方掲載サ

タセルコトデアリマス、是ガ政治ノ任務デ

アリマス、是ガナイ、法律命令、規則ダケ

デアル、ダカラ今日商工大臣隨分御苦心デ

アリマセウガ、中々產業經濟ノ運營ガ巧ク

行カナイデセウ、規則ヅクメ、法律ヅクメ、

行カナイデセウ、規則ヅクメ、法律ヅクメ、

行カナイデセウ、規則ヅクメ、法律ヅクメ、

ス、東洋政治道德ノ經典ト言ハレル論語ニ

ハ、十分既ニ御記憶ノコトト思ヒマスガ、

實ニ適切ナル言葉ガアリマス「政ヲ行フニ

徳ヲ以テスレバ令セズシテ行ハレ、罰セズ

シテ禁ゼラル、政ヲ行フニ嚴法酷罰ヲ以テ

スレバ民免レテ恥ナキニ到ル」トアル、サ

ウナツタラ目的ハ達成サレマセヌ、維新ノ

先傑高山彦九郎ハ三條大橋ニヒレ伏シテ「玉

ノ御聲ノカカル嬉シサ」ト言ツテ、男子一生

ノ感激シニ咽ビ泣イタト言ヒマスガ、今上

陛下ガ農林大臣ヲ御召シニナツテ、國民ノ

自發的、能動的行爲ヲ必要ト致シマス、私

ノ罪デハナイト思フ、此ノ形式的法治主義ノ

根柢ノ所、即チ此ノ形式的法治主義ノ

意セラレントラニマス

○三田村武夫君（續）近頃下駄屋サンハ、

オ正月ガ三遍來タト云フ、去年ノ暮カラ正

月ガ三遍來タト云フ

○議長（田子一民君）三田村君、時間ニ留

メテ居リマス、億兆一人モ處ヲ得ザル時ハ

朕ガ罪デアル、今日ノ事朕自ラ身骨ヲ

勞シ、心志ヲ苦シメ難難ノ先ニ立ツト仰セ

ニナツテ居リマス、又畏多クモ 今上陛下

御卽位ノ御勅語ヲ拜シマスト、「皇祖皇宗國

ヲ建テ民ニ臨ムヤ國ヲ以テ家ト爲シ民ヲ視

ルコト子ノ如シ列聖相承ケテ仁恕ノ化下ニ

沿革兆民相率キテ敬忠ノ俗上ニ奉シ上下感

孚シ君民體ヲニス是レ我カ國體ノ精華ニ

ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、
小形船舶乗組員手帳法案ノ第一讀會ノ續ヲ
開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——理
事増永元也君

小形船舶乗組員手帳法案(政府提出、貴
族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書

一小形船舶乗組員手帳法案(政府提出、貴
族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 宮澤 裕

衆議院議長田子一民殿

〔増永元也君登壇〕

○増永元也君 只今議題ニナリマシタ小形

船舶乗組員手帳法案ノ委員會ノ經過竝ニ結
果ヲ、委員長ニ代リマシテ御報告申上ゲマス

本法案ハ御承知ノ通りニ船舶乗組員ノ確
保ヲ圖リマスル爲ニ、五「トン」以上ノ小形船

舶乗組員ニ手帳ヲ持タシメマシテ、是等海
上勞務者ニ付テ其ノ配置竝ニ其ノ就業ノ狀

況フ明カニ致シマシテ、以テ移動防止ニ資

セントスル趣意アリマス、此ノ法案ニ關
シマシテハ、二月四日、五日ノ兩日ニ瓦リ

マシテ最モ國民ノ關心ヲ持ツテ居ル我ガ國

ノ海運竝ニ造船ノ諸方策ニ對シマシテ、政
府ノ畫策實施セントセラレテ居リマスル問
題ヲ最モ詳細ニ報告サレタノデアリマス

此ノ法案ニ付キマシテハ、各委員カラ最
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

小形船舶乗組員手帳法案

〔第一讀會(確定議)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○依光好秋君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、民法

モ熱誠眞摯ナ質疑が開陳サレタノデアリマ

シタガ、其ノ主ナルモノヲ申上ゲマスルト、
船員ノ待遇改善、ソレカラ船員ノ社會的地位

位ノ向上、船員ノ教育、養成、船員ノ需給

並ニ船員ノ採用年齢低下ト云フヤウナ問題

ニ對シテ、各委員ヨリ非常ナ熱誠ナル要望

ガ致サレタノデアリマス、之ニ對シマシテ

政府御當局ヨリ、是等ノ適切ナル具體的措

置ヲ立テ、速方ニ是ガ實施ヲ期スル旨ノ

御答辯ガアツタノデアリマス、詳細ハ速記

錄デ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス

斯ク致シマシテ討論ヲ省略シテ採決ニ入

リマシテ、全員一致之ヲ可決致シタノデア

リマス、此ノ段御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 本案ノ第一讀

會ヲ開クニ御異議アリマスカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ本案ノ第一讀會ヲ開クニ決

シマシタ

○依光好秋君 直チニ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通

可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 依光君ノ動議

認メマス、仍テ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
認メマス、仍テ直チニ本案ノ第一讀會ヲ開

キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

中改正法律案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告
ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミ

マス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 依光君ノ動議

認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、民

法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、

委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長野村嘉

六君

〔副議長退席、議長着席〕

民法中改正法律案(政府提出、貴族院

送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

一民法中改正法律案(政府提出、貴族院

報告書

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 野村 嘉六

〔野村嘉六君登壇〕

○野村嘉六君 民法中改正法律案ニ付キマ

シテ、簡單ニ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報

告ヲ申上ゲマス

本件ノ内容ハ、民法中私生子ノ名稱ヲ廢

止スルコト、之ニ牽聯スル條文ノ整理ニ

シテ、胎兒相繼權ヲ認め、又認知ノ訴へハ父又ハ

母ノ死亡ノ日ヨリ三年トスル新タナル法規

ヲ設ケタ等デアリマス、私生子ナル名稱ガ

如何ニ世間ニ對シ本人ノ肩身ヲ狹クシツツ

アルカト云フコトハ申上グルマデモアリマ

セス、即チ本人ニハ何等ノ罪モナケレバ何

等ノ科モアリマセス、然ルニ段々成長スル

ニ從ツテ、此ノ私生子ト云フ名稱ガ獨り本

人ノ心ヲ苦シメマスクトヲ思ヒマスト、洵ニ

同情スベキコトデアルノデアリマス、殊ニ斯

カル私生子ト云フ名稱ヲ國ノ法律ニ規定ス

ルニ至リマシテハ、德義上カラ申シマシテ

モ穩當ヲ缺クコトト思フノ除クト云

フ案デアリマスカラ、德義上當然ナリト存

ズル次第デアル、又結婚後其ノ届出以前ニ

召集サレ、戰死ヲ致シタル場合ノ如キ、其

ノ生レタ子供ニ對シテ適當ナ保護ヲ加ヘナ

ケレバ、戰死致シマシタ忠靈ニ對シテモ相

濟マヌ譯デアリマス、仍テ胎兒ハ既ニ生レ

タモノト看做スト云フ新タナル規定ヲ設ケ

タノデアリマス、更ニ又此ノ規定ノ結果、

認知ノ訴ヘヲ父又ハ母ノ死亡ノ日ヨリ三年

ヲ期限ト致シマシタ是亦新シイ規定ヲ設ケ

タノデアリマス、申スマデモナク、是ハ私

生子ノ保護ヲ厚クシテ、現時ニ於ケル民法

ノ缺點ヲ補ヒ、是ガ爲ニ惱シ居ル多數ノ

人々ヲ救フト云フ考ヘカラ起シタルコトデア

ルカラ、當然ナリト信ズル次第デアリマス

斯ク致シマシテ委員會ヲ開クコト四回、

討論ヲ略シ、採決ニ當リ委員會ハ滿場一致

原案ヲ可決致シタノデアリマス、仍テ此ノ

段御報告ヲ致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 本案ノ第一讀會ヲ開クコト四回、

討論ヲ略シ、採決ニ當リ委員會ハ滿場一致

原案ヲ可決致シタノデアリマス、仍テ此ノ

段御報告ヲ致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 本案ノ第一讀會ヲ開クコト四回、

討論ヲ略シ、採決ニ當リ委員會ハ滿場一致

原案ヲ可決致シタノデアリマス、仍テ此ノ

段御報告ヲ致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異

議アリマセス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異

議アリマセス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異

報告書

一臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一特別法人稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一營業稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一國庫出納金端數計算法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

報告書

一戰時災害國稅減免法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

一地方分與稅中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十七年二月五日

委員長 勝 正憲
衆議院議長田子一民殿

報告書

○勝正憲君(勝正憲君登壇)

只今議題ト相成リマシタル増

稅關係各案ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經

過茲ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

テ、是等諸法案ノ内容ハ、既ニ過日本議場ニ

心トル增稅及び電氣瓦斯稅、廣告稅並ニ馬券稅等ノ新稅ヲ創設致シマシテ、平年度分約十一億五千餘萬圓ノ增收ヲ得ントスル案デアリマス、而シテ茲ニ注意スペキコトハ、政府ハ是等巨額ナル租稅ノ增收ヲ圖ルト共ニ、他ノ一面ニ於キマシテ刻下極メテ必要ナル貯蓄ノ増強、生産力ノ擴充、產業再編成ノ促進及ビ人口及ビ國民保健政策ノ圓滑ナル遂行ヲ圖ル爲ニ、稅法中幾多ノ改正ヲ加ヘ、又臨時租稅措置法ニ大ナル修正ヲ加ヘマシテ、其ノ爲ニ三億四千八百萬圓ニ達スル歲入ヲ犧牲ニ供シ、增稅ニ依ル苦痛ト壓迫ヲ除キ、國民負擔ノ緩和ヲ圖ツデ居ル、斯様ニ大イニ苦心ノ存スルコトヲ看取シ得ル點デアリマス

本委員會ハ一月二十二日ニ成立致シマシテ、案ノ内容ニ付キマシテハ政府ヨリ詳細ナル説明ガアリマシタ、引續キ質疑ニ入ツテ爾來十二回ノ委員會ヲ開催致シマシテ、慎重審議ヲシタノデアリマス、其ノ間極メテ重要ナル多數ノ質疑應答ガアリマシタガ、其ノ中、案ノ内容ニ極メテ密接ナル關係ノアル所ノ主ナルモノニ付キ三、四點御報告ヲ申上ダタイトイマス

先づ第一ニ財政ノ根本問題ニ關スルモノデアリマスガ、大東西戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、我ガ國ノ財政ハ益々膨脹スルコトナリ、隨テ國債ノ發行モ亦增加ヲスルコトトナツタガ、財政ノ健全性ヲ保持スル爲ニ、租稅ト公債トノ割合ハ如何ナル程度ニスルコトヲ適當當ト認ムルカ、斯ウ云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ノ答辯スル所ハ、御説明ガアリマシタカラ、今更改メテ之ヲ繰返ス必要モアリマセヌガ、其ノ骨子ト致シマスル所ハ、戰時ニ於ケル財政需要ノ増加ニ對應シテ國庫ノ收入ノ増加ヲ圖リ、之ニ依リマシテ戰時財政ヲ強化スルト同時ニ、其ノ結果トシテ購買力ノ吸收及び消費ニ抑制ニ資セントスルノデアリマス、昨秋第七十七議會ニ於キマシテ成立致シマシタ所ノ間接稅ヲ中心トスル六億三千餘萬圓ノ增稅ニ引續キマシテ、今回ハ各種ノ直接稅ヲ申

メ一定シテ斯様々々ノ割合ニ依ルベキモノ

デアルト決メル譯ニ行カナイモノデアル、斯様ナ答辯デアリマス

次ニ最近數次ノ增稅ニ依リマシテ國民ノ負擔ハ相當增加シタガ、今後尙ホ增稅ヲスル餘地ガアリト認メルカ、將來ノ增稅ニ付

テハ如何ナル方針デアルカ、又將來ノ財政需要如何ニ依ツテハ相當增稅ノ必要ガアリ

ト認メラレルガ、其ノ場合ニ於テ現在ノ租稅體系デ十分デナイン場合ガ生ズルノデハナ

イカ、政府ハ將來租稅體系ヲドウスル考ヘデアルカ、例ヘバ賣上稅トカ財產稅トカ云フヤウナモノヲ創設スルト云フヤウナ考ヘハナイカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、今回ノ增稅ハ第七十七議會ニ

於ケル間接稅ヲ中心トスル增稅ト關聯シタルモノニアツテ、相當多額ナル增稅デハアルガ、之ニ依ツテ將來增稅ノ餘地ナシトハ考ヘテ居テイ、將來增稅ヲスルヤ否ヤ、又如何ナル程度ノ增稅ヲ行フヤニ付テハ、其ノ際ニ於ケル經濟狀態及び國民擔稅力等ニ付テ慎重考慮ヲ要スルカラ、今具體的ニ之ヲ述ベルコトハ出來ナイ、又將來ノ增稅ニ關聯シテ租稅體系ヲ如何ニスルヤニ付テハ、現在ノ稅制ヲ以テ何處マデモ行キ得ルトモ考ヘナイケレドモ、現在ノ所、租稅體系ヲ根本的ニ變更スル考ヘハ持ツテ居ナイ、又賣上稅ハ非常時財源ヲ得ル爲ニハ相當注目ニ值スル稅種デアルケレドモ、物價ニ對スル影響其ノ他ノ點ニ付テハ、本稅ハ不動產重課ニ傾キ易ク、課稅技術上ニスルノデ、今回ノ增稅案ニ於テハ是ノ採用ヲ見合ハシタノデアルガ、今後十分著研究スルコトニシタ、又財產稅ニ付テハ、本稅ハ相當困難ガアリト認メラルルカラ、本稅ニ付テハ慎重考究ヲ要スル旨ノ答辯ガアリマシタ

又其ノ次ニハ、戰時ニ於ケル租稅トシテハ平時ニ於ケル租稅トハ異リマシテ、必ズナケレバナラナイカト云フコトハナイノデアツテ、要ハ戰時ニ於ケル經濟力ノ維持目的モ相當困難ガアリト認メラルルカラ、本稅ニ付テハ慎重考究ヲ要スル旨ノ答辯ガアリマシタ

シモ負擔ノ公平ノ見地ノミニ因ハレルコトナク、少額ト雖モ國民ニ成ベク廣く、普遍的ニ租稅ヲ負擔セシムルヲ適當ト認ムルガ、之ニ對スル政府ノ所見ハドウデアルカト云フ質問アリマシタガ、之ニ對シテ政府ヨリ、戰時ニ於テハ必要ナル費用ヲ國民ノ負擔ニ依ツテ調達スル必要上、負擔ノ公平ミニ因ハルコトハ必ズシモ適當トハ認メラレナイ、此ノ見解ニ付テハ全ク政府モ同様ナ意見ヲ有スル旨ノ答辯ガアツタノデアリマス。

次ニ、戰時ニ於テハ租稅ニ依ツテ極メテ多額ノ收入ヲ確保スル見地ヨリ見ル時ハ、消費稅及ビ流通稅ノ擴充ヲ圖ルノ必要ガアリハシナイカ、是ハ納稅者ノ心理ヨリ見テモ適當ト認ムルガ、政府ハドウ考ヘルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ヨリ、是等ノ點ニ付テハ今後十分研究スル旨ノ答辯ガアリマシタ。

次ニ、今回ノ增稅ハ臨時的ノモノデアルカ、若シ臨時的ノモノデアルトスルナラバ、戰後輕減セラレルコトヲ期待シテ然ルベキモノデアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ヨリ、今回ノ大東亞戰爭ハ相當長期ニ瓦ルモノト認メラレルノミナラズ、大東亞ノ建設其ノ他ニ付テモ相當資金ヲ要スル關係上、財政上ノ需要モ相當長期ニ瓦ツテ多額ヲ要スル見込デアルカラ、租稅負擔ハ相當ニ加重セラレルモノト認メラレルガ、之ニ依ツテ生產力擴充ニ差障リヲ來ス虞ハナイカ、又銀行預金、貯金ニ對スル綜合所得稅ノ源泉課稅ヲ廢止スルノ考ヘハイモノト認メラレル旨ノ答辯ガアツタノデアリマス。

次ニ、今次ノ增稅案ニ依レバ、株式所得ノ負擔ハ相當ニ加重セラレルモノト認メラレルガ、之ニ依ツテ生產力擴充ニ差障リヲ來ス虞ハナイカ、又銀行預金、貯金ニ對スル負擔ハ相當ニ加重セラレルモノト認メラレルニ拘ラズ、今日此ノ重大ナル時局ニ直面ト云フ沟ニ重大ナル增稅案アリマス、然ニ一戸平均百二十餘圓ノ負擔ノ増加ヲ來スルニ拘ラズ、第一讀會(確定議)シテ居ル銃後國民ハ、是等ノ負擔ハ喜ンデナカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ、今回ノ增稅案ノ作成ニ當ツテ、稅率ノ配賦等ニ關シテ、生產力擴充ニ付テハ十分考慮

シテ決定シタル次第アツテ、尙未配當所得ニ付テハ、綜合所得稅ヲ課スル場合ニ於テ加算稅ヲ廢止スルコトトシ、又時局產業會社等ノ新規拂込株式ノ配當金ニ付テハ分類所得稅ヲ輕減スルコトトシ居カラ、配當所得ノ負擔加重ニ依ツテ直チニ生産擴充ヲ阻礙スルモノトハ考ヘラレナイ、又銀行ノ預金等ノ利子ニ對スル源泉課稅ノ制度ハ、既ニ多年ニ亘ツテ行ヒ來リタル關係モアリ、殊ニ戰時ノ財政金融上ニ及ボス影響ニ付テ懸念セラルガ如キ措置ヲ執ルコトハ、戒慎ヲ要スルカラ、當分ノ内本制度ヲ存續スルヲ以テ適當ト認メルト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、又今回ノ增稅ニ依リマシテ預金、貯金ノ減少ヲ招來スル虞ハナイカト云フ質問ニ對シマシテ、政府カラ、今回ノ增稅ニ依ツテ預金利子ニ對シテ他ノ所得トノ振合上相當負擔ハ加重トナツカレドモ、戰時下ノ此ノ際トシテハ洵ニ已ムヲ得ザル所デアルガ、一面臨時租稅措置法ニ於テ長期間預金ニ對スル課稅ヲ輕減スル等、各種ノ措置ヲ講ジテアルカラ今回程度ノ增稅ニ依ツテ貯蓄ノ減少ヲ來ス處ハナイ旨ノ答辯ガアリマシタ、其ノ他多數ノ有益ナル質問應答ガアリマシタガ、是ハ速記録ニ譲リマス。

○依光好秋君 直チニ十八案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス。

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ十八案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ。

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ十八案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ。

○議長(田子一民君) 御異議ナシト呼ブ者アリ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ十八案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス。

所得稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

法人稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

相續稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

組織物消費稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

物品稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

電氣瓦斯稅法案 第二讀會(確定議)

廣告稅法案 第二讀會(確定議)

馬券稅法案 第二讀會(確定議)

印紙稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

臨時利得稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

營業稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

臨時租稅措置法中改正法律案 第二讀會(確定議)

國庫出納金端數計算法中改正法律案 第二讀會(確定議)

戰時災害國稅減免法案 第二讀會(確定議)

所得稅等ノ日滿一重課稅防止ニ關スル法律案 第二讀會(確定議)

地方分與稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(田子一民君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、十八案トニ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)。是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス。

午後三時五十一分散會

○議長(田子一民君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、十八案トニ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)。是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス。

衆議院議事速記録第九號中正誤

一四六頁四段四行(安藤正純君演説)「一億一心ノ畸形兒」ハ「一億一億心ノ畸形兒」ノ誤植